

キャンパス通信 ippeki



- 01 学長挨拶／  
対話を通して自ら学ぶ
- 02 特集1／  
3年ぶりの遥碧祭を開催!!
- 03 学部 第二回学長杯を開催しました
- 04 就職 看護師国家試験に向けて
- 05 特集2／  
令和4年度は「人道」と「防災・減災」の2つを  
テーマに地域の方々との交流を深めました!
- 07 大学院
- 08 教員紹介
- 09 ようこそ図書館へ!
- 10 3年ぶりに来場型のオープンキャンパスを開催!  
キャンパス体験プログラムを開催!

第24号  
2022.10▶2023.3

令和4年度卒業式・学位授与式 令和5年3月14日



ひとりを見る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

学長挨拶

## 対話を通して自ら学ぶ

新学期を迎え、皆さん新たな気持ちで学生生活のスタートを切ったと思います。新入生の皆さんはとりわけ未知の世界へのワクワク感で一杯でしょう。先輩の方々も、これまでの経験をもとにこれからチャレンジする課題への現実味のあるドキドキ感を抱いているでしょう。

新たな年度を迎えましたが、私たちの周りで起こっている出来事は解決をみないままです。新型コロナウイルス感染症は終息をみないまま5類に移行し、ますます個別の感染管理への努力が必要となっています。ロシアによるウクライナへの侵攻は泥沼化し、犠牲者が後を絶ちません。トルコの大地震では、隣国シリアを含め5万人以上の死者が出ており、1000万人以上が住まいを失うなどの被害を受けています。このような世界的課題の解決は、他人ごとではなく、「自分ごと」として捉え、世界レベルでの未来を考えることなしには得られないと思います。私たちが専門とする保健・医療にかかわる課題は、世界的危機を孕みながら変動し、複雑化しています。「何がその人にとって最善の医療なのか」「その人の幸せにどのように貢献できるのか」が現場では問われる日々です。

世界的課題であれ、日々関わる人々の健康課題であれ、難しい判断を伴う課題に、私たちは、社会人として、また、専門職として対峙しなければなりません。未来社会を支えるには、不確実で複雑な課題を紐解き、そこから希望へ向けて歩みを方向付け、踏み出さなければなりません。そのために、皆さんには、ぜひ、「対話を通して自ら学ぶ」ことを大切にしていきたいと思います。つまり、現実から目をそらすことなくよくみつめること。出来事や現象の背後にある原因や理由、意味や価値を自分の目を通してよく考えること。そして、自分の考えや意見を他者に分かってもらえるように伝え・交わしていくことです。これらのことは、そう容易くは身に付くものではありません。人は、他人の目や評価に常に曝されており、良い評価を得ること、批判を受けないようにする思考や行動を知らず知らずのうちに身に付けているからです。これらを払拭するために、自分自身の見方や考え方を大切に、自分でよくかみ砕いて自分の言葉で伝える努力をすること、他者の見方や考え方に耳を傾け、自分自身の見方や考え方と同意する点や相違点について考えてみることで、それらについて多面的に吟味検討し、尊重して相互の対立が乗り越えられるよう、互いの努力により新しい視点を見出すことが必要となります。

「対話を通して自ら学ぶ」という態度をしっかりと大学生活の中で身に付けることが、未来を拓く皆さんにとって掛け替えのない力となると信じています。学問や研究は、現実を考えぬくこととの対話のうえに営まれます。したがって専門職をめざしている皆さんには、「対話を通して自ら学ぶ」という態度は生涯必要とされるものです。

私も、皆さんと同様に新しい出会いやチャレンジを心密かに楽しみにしつつ、「対話を通して自ら学ぶ」日々を始めたいと思います。

学長 小松 浩子

※本学ホームページ「学長室便り No.1」にも同様の記事を掲載しています



特集1

# 3年ぶりの遥碧祭を開催!!

「No limit.～楽しみ方は無限大!!!～」をテーマに、1・2年生を中心に企画・実施しました



令和4年11月6日(日)、遥碧祭を開催しました。3年ぶりの遥碧祭ですが、何をどうすればよいのかわからない状態からスタートしました。気持ちを新たに「私たちから新しいものを作ろう!」「限界はない・どんなことでも挑戦してみよう!」という思いを込め、テーマは「No limit.～楽しみ方は無限大!!!～」としました。

プログラムは午前の部・午後の部の2部構成で一般の方は午前の部、学内関係者は両方に参加できるよう案内しました。

催しものは、2年生・1年生が中心となって企画しました。新型コロナウイルス感染症対策として飲食を伴う模擬店はやめ、バザー、クイズラリー、映えスポット、プログラミング教室、サークルメンバーによるバンドやフルートの演奏といった老若男女問わず楽しめるものから、企業とコラボしたポケémonのゲーム対決などを実施しました。また、国際にちなんで様々な国の民族衣装のファッションショーも行いました。

朝9時からの開催にもかかわらず、一般の方をはじめ多くの方に参加いただきました。遥碧祭を通して様々なことを経験し学びました。課題もありましたが、私たちの思いを形にし、新たな一歩を踏み出したのではないかと思います。

バザーの収益は募金として日本赤十字社福岡県支部に寄付しました。ご協力をいただきました皆様に感謝いたします。

遥碧祭実行委員 2年生 柿木 優希



サークルメンバーによる演奏会



民族衣装をまわってファッションショー

## 【教員紹介】

	リベラルアーツ ・専門基礎	看護の基盤	成育看護	老年 ・慢性看護	ヘルス プロモーション ・在宅看護	メンタルヘルス	クリティカルケア ・災害看護	国際看護	国際看護実践 研究センター/ 地域連携 ・教育センター
教授	高瀬 文広 中山 晃志 柳井 圭子	倉岡 有美子 本田 多美枝	永松 美雪	中村 光江 姫野 稔子	小野 ミツ	高橋 清美	櫻本 秀明	小川 里美	伊藤 明子
准教授		阿部 オリエ	石山 さゆり 川崎 幹子	梶原 弘平 原田 紀美枝	緒方 文子 西村 和美	石飛 マリコ			
講師	木村 涼平	小手川 良江	太田 純代 福田 陽子 松中 枝理子	西山 陽子 山本 孝治	鎌田 ゆき		福島 綾子		
助教		鬼丸 美紀 隈井 寛子 添田 梨香 高堂 香菜子	内田 文月 菊池 さよ	鈴鹿 綾子 高比来 ひとみ 千原 明美	小川 有希子	高瀬 理恵子	鴨川 めぐみ 吉原 駿	宇都宮 真由子	
助手					大森 健太郎				

# 第二回学長杯を開催しました

第二回の学長杯を9月に開催しました。楽しみながら学ぶというコンセプトはそのままに、「赤十字の大学で学ぶこと」の意義を学生も教職員も感じることができるよう仕掛けがたくさん組み込まれ、全8チーム、計36名がさまざまな課題にチャレンジしました。今回は学年が異なっていたり、普段はあまり関わりのなかったりする学生同士で組んだチームも参加しました。チームで課題に取り組んだことで、臨機応変に対応したり、知識を活かしたアドバイスをする先輩の姿に感動したり、自らの成長を実感する機会となりました。

また、今回は福岡県支部から1名、福岡赤十字病院から3名に参加協力いただきました。実際に看護師に報告するブースでは緊張しましたが、ベッドサイドで観察した結果を一生懸命考えて報告することができました。また、新人看護師役の看護師に指示を出しながら看護援助をしていくブースでは、患者の状態に合わせた看護援助をチームで考えながら実践につなげることができました。多数傷病者の発生した状況でトリアージと応急処置をするブースでは、再現された災害現場や傷病者役が臨場感のある場面を再現してくれました。その中で赤十字の救護服を着た評価者の姿はとてもかっこよく、そして安心感もあることを実感しました。参加いただいた看護師、県支部の方からも「学習した内容を一生懸命活用して課題に取り組む姿に感動した」「生き生きとした普段の学生の姿を見ることができて新鮮だった」との感想をいただきました。



## <参加した学生の声>

- ・それぞれの学年で見る視点が違って「なるほど」と考えることができた。
- ・福岡赤十字病院の看護師や県支部の方と実際にかかわることができ、緊張感もありながらたくさん学ぶことができた。
- ・臨機応変に仲間や先輩と話し合っ最善を尽くすことができた。



麻痺のある患者の移乗を新人看護師(役)に指導しながら実施しました!



実習指導者に報告してみよう!



災害発生! トリアージをしよう!



新人看護師に的確な指示を出して安全にケアをしよう!

## 優秀論文発表会

令和4年12月27日に本学オーヴァルホールにて令和4年度優秀論文発表会を開催しました。

4年生118名の中から厳正なる論文審査を経て選ばれた最優秀賞1名、優秀賞5名の皆さんが卒業論文を発表しました。

4年間の大学生活や3年次の領域別看護学実習で感じたことなどをきっかけに、リサーチクエスチョンを導き出し、看護を基本とした多種多様なテーマが多く、研究方法を発展的に習得し、指導教員と共に力を伸ばした成果が現れていました。





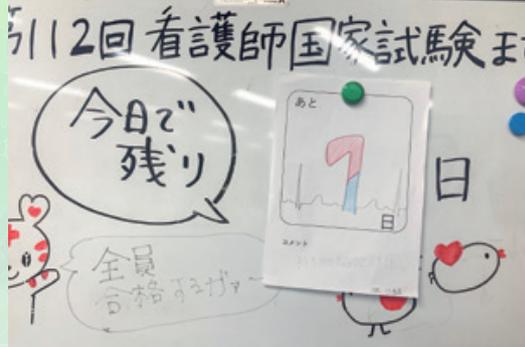
# 看護師国家試験に向けて

第112回看護師国家試験が令和5年2月12日に実施され、本学も4年生118名が受験しました。

大学生4年間の知識の総まとめの試験が国家試験ですが、今回の試験から看護師国家試験出題基準の改訂に伴い、新出題基準となったため、多くの学生が不安を抱えながらも大学のラーニングcommonsやオンライン自習室などを活用し日々学習に励んでいました。



ラーニングcommonsで自習中。  
時には友達同士で助け合う姿も



試験日まで、日々カウントダウン



合格祈願の鳥居をくぐって、  
神頼みも忘れずに

## オンライン自習室

コロナ禍だった2021年度より開設した国家試験対策の1つです。感染リスクを回避し学習できる環境の整備として実施しました。自宅で学習する学生の手元を中心にビデオで映しながら学習するのがオンライン自習室です。感染リスクの回避だけでなく、遠方から大学に通学する学生も、通学する手間がなく大学の友人と学習することができるため、みんなで学習している雰囲気を感じることができ、より学習に身が入ると好評でした。

## 進路状況

就職・進学希望者の進路決定率は開学以来100%を継続しています。  
2022年度卒業生の具体的な就職実績は下記のとおりです。

### 【赤十字施設】

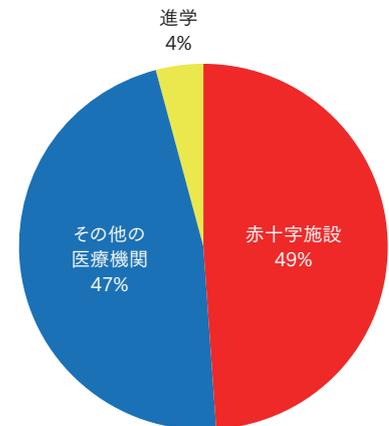
福岡赤十字病院、今津赤十字病院、唐津赤十字病院、日本赤十字社長崎原爆病院、熊本赤十字病院、大分赤十字病院、鹿児島赤十字病院、山口赤十字病院、岡山赤十字病院、神戸赤十字病院、大阪赤十字病院、京都第一赤十字病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、大森赤十字病院、さいたま赤十字病院

### 【その他の医療施設】

済生会八幡総合病院、産業医科大学病院、小倉記念病院、国立病院機構東医療センター、飯塚病院、済生会福岡総合病院、高邦会グループ、北九州市立病院機構、JCHO九州病院、あまがせ産婦人科医院、久山療育園重症患者医療療育センター、国立病院機構九州がんセンター、国立病院機構九州医療センター、聖マリア病院千早病院、浜の町病院、福岡みらい病院、済生会二日市病院、福岡大学病院、福岡徳洲会病院、福岡和白病院、長崎みなとメディカルセンター、長崎大学病院、国立病院機構熊本再春医療センター、宮崎県立宮崎病院、沖縄県病院事業局、国立病院機構広島西医療センター、済生会横浜市南部病院、湘南鎌倉総合病院、昭和大学附属病院、東京女子医科大学附属病院、日本大学附属板橋病院、北里大学病院、さいたま市立病院、順天堂大学医学部附属浦安病院

### 【行政機関】

大阪市



### 保健師になるには

保健師課程では、講義・演習・実習を通して、地域診断や地域のグループ支援・組織化、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康検査など、保健師活動の理論と方法について学び、産業保健師や医療機関で活動する保健師などとしての基礎的能力を身につけます。保健師の免許を取得するには、看護師免許の取得が前提条件です。

※4年次4月に保健師教育履修料10万円を納入していただきます。

### 助産師になるには

開学当初から学部内で助産師コースを開設し、2010年に九州で初めて大学院での助産師教育を始め、助産学のエキスパートを多数輩出してきました。国際協力など経験豊かな教員が在籍し、赤十字のネットワークを生かした実習環境で学べます。また、助産師国家試験受験資格のほかに、研究活動や修士論文作成を経て、「修士号」の学位を取得できます。

# 令和4年度は 「人道」と「防災・減災」の2つをテーマに 地域の方々との交流を深めました!

## 4回の公開講座を開催

今年度は、「地域にひろげる『防災・減災』～いのちと健康を守る」をテーマに、一般の方を対象とした公開講座を開催しました。「防災・減災」を軸に、①災害への備え、②高齢者の特性を理解する、③認知症高齢者の介護、④互近助の力、と、トピックを変えて実施したところ、50名以上の方々にご参加いただきました。

各講座には、学生がボランティアとして参加し、地域の方と一緒に、防災・減災について理解を深めることができました。



非常時持出グッズを参加者に説明する学生



参加者の方との認知症予防体操を実践

## 宗像市議会意見交換会に参加

9月に、学部4年の3名が、宗像市の市議会議員の方々との意見交換会に参加してきました。

宗像市の「次世代を担う若者に、少しでも議会の存在を身近に感じてほしい」という思いから開催され、看護・保健・医療について学んできた学生としての視点から、しっかりと自分の考えを述べ、議員さんに質問もしています。

参加した学生は、この意見交換会を通して、普段の生活から政治への関心をもつことの大事さを感じ、「みんなでまちをつくる」という意識をもち、卒業後の社会人生活に課題を見出す貴重な機会となりました。



実際に市議会が行われる会場での意見交換

## 子ども大学への参加

11月に、宗像市内の小学校・中学生を対象に「むなかた子ども大学」が開催され、本学は、看護師コースとして、「これでもみんなもLittle看護師」を開講しました。

看護師体験コースでは、授業の冒頭に「赤十字の標章(マーク)」について、フローレンス・ナイチンゲールや赤十字の創設者であるアンリー・デユナンや佐野常民のお話、看護師の仕事について紹介しました。小学生の皆さんが積極的に挙手をし、学生も教員も豊富な知識に驚きました。参加した小学生からは、「看護師さんって凄いね!」「看護師さんのお仕事を知ることができて楽しかった!」等の感想がありました。



小学生に聴診器の使い方を教える学生



ハートラちゃんも人気者です

## クリスマス献血キャンペーンに参加

12月18日に、福岡市役所ふれあい広場にて、「全国学生クリスマス献血キャンペーン」が開催され、22人の学生が参加しました。

当日は、寒中たくさんの方が献血をしに来てくださり、献血受付者数109人、献血者数92人という結果になりました。吹雪にも関わらず足を運んで下さった皆様、ありがとうございました!



街頭で献血を呼びかける学生

## 災害訓練に参加

### 9月 宗像市総合防災訓練

宗像市防災連携会議主催による宗像市総合防災訓練に、ボランティア学生15名と教職員7名が参加しました。今年度のメイン会場は赤間西地区にある赤間西小学校でした。

9月10日午前8時55分に宗像市で震度5強の地震発生の想定で訓練は開始され、学生たちは、傷病者役として、救助を待つ傷病者や、一次トリアージをされ、二次トリアージを待つ傷病者役を住民の方々とともに演じました。傷病者の役に徹するために、学修した赤十字救急法を復習し、けが、きずの手当、骨折の手当、などを復習して訓練に臨みました。訓練では、晴天の中、負傷し救助を待つ負傷者の気持ちを疑似体験する機会になりました。

救助者として消防隊員によるトリアージと搬送、重傷の負傷者の搬送にはヘリコプターによる搬送のデモンストレーションが行われました。防災に対する宗像市や地区の方々の取り組みを知り、自分たちの防災に対する意識を再確認する機会にもなりました。



トリアージをされる学生

### 2月 災害ボランティアセンター設置訓練

宗像市社会福祉協議会と宗像市による災害ボランティアセンター設置訓練が2月4日にメイトム宗像で開催され、学生ボランティア22名と教職員10名が災害ボランティア役で参加しました。

災害ボランティアは、被災された方の生活再建のために公的な支援では届かないところを支援します。そして災害ボランティアセンターとは、被災者の生活再建の支援を目的に、ボランティアの力をつなぎ、「被災者中心」、「地元主体」、「協働」の3原則に基づき運営されます。

訓練に参加した学生は、「訓練をすることで多くの改善点が明らかとなり、改めて訓練することの大切さに気付くことができた。宗像市に実際に住んでいて、今まで大きな災害に出会ったことがないため危機感があまりなかったが、今回の訓練を経験して前より危機感を持たなければならないと思うようになった」と感想を述べ、今後は研修での学びを生かして災害関連など、地域のボランティアにどんどん参加していこうと、ボランティア活動への意欲を見せていました。



具体的な活動の説明を受けるボランティア役の学生

## 赤十字コーナーの開設

前回第23号でご紹介しました、「赤十字コーナー」を、大学ゲート棟の正面玄関入口と図書館に、10月に開設しました。玄関側には、赤十字誕生の歴史や創始者の紹介パネル、赤十字関連書籍、九州圏内の赤十字ゆかりの地MAP等、赤十字を詳しく知っていただくための展示をしています。

また、赤十字に対する思いを一人ひとりが葉っぱに記し、みんなで育てる「赤十字<気づきの木>」も掲示しています。

図書館側には、赤十字「看護婦制服」「救護服」を、活動時の写真と併せて紹介しています。ゲート棟の両赤十字コーナーをご覧いただくとともに、ぜひ「赤十字<気づきの木>」へ、みなさんの思いをお寄せください。



図書館には赤十字制服を展示中



みなさんの想いを緑葉に託しています



九州にある赤十字ゆかりの地をご紹介します



バスの待ち時間の休憩場所としても開放しています

## 令和4年度修士課程・博士課程修了生の声

令和4年度は、本学から修士課程12名、博士課程1名の方が修了されました。ここでは、それぞれの課程を代表して、2名の方の声を掲載しています。

### 看護学研究科看護学専攻修士課程 東木 友里子さん

大学院での学びが私にもたらしたもの



私が大学院に進学しようと思ったきっかけは、勤務先で副看護師長への昇進に伴う部署異動で好きだった助産師職を離れたこと、そして、副看護師長という管理職としての役割を全うできない自分に対して葛藤を抱いたことでした。その頃の私は、とにかく何かしなくては、自分にしかできないことを見つけてなくては、と必死でした。今思えば、職場以外に自分の居場所を見つけたかったのかもしれません。そんな理由で進学した大学院ですが、仕事と勉強の両立は予想以上にハードでとにかく無我夢中でした。しかし、新しい発見や学びが多い刺激的な日々を過ごすことができました。特に、他の領域で学ぶ同級生とのディスカッションでは、様々な視点や考えに触れ、自分の視野がどんどん広がるのを感じることができました。また、特別研究では自分の疑問と丁寧に向き合い、多角的な視点で一つの現象を明らかにしていく過程に夢中になって取り組むことができました。分析の過程は、辛く、苦しい日々でしたが、この研究を成し遂げたらどのような景色が広がるのだろうというワクワクとした気持ちを持ち続けながら自分の立てた問いに向き合うことができました。そして、大学院での学びが深まれば深まるほど、臨床現場での管理者としての実践にも自信が付けてくるようになりました。このように、大学院での3年間は私にかけがえのない経験と自信をもたらしてくれました。

私が3年間という長い期間を走り切ることができたのも、先生方の丁寧で熱心なご指導があったからにほかなりません。また、大学院で学ぶにあたり支えてくれた職場の上司や同僚、家族に心から感謝します。今後は大学院での学びを社会に還元すべく、臨床現場で副看護師長としてさらに貢献できるように努力したいと思います。

### 看護学研究科共同看護学専攻博士課程 酒井 久美子さん



私は、研究や看護についてさらに学ぶ必要性を感じ、博士課程への進学を志しました。大学院の情報について色々調べたり、オープンキャンパスに出かけたり、いくつかの大学院の先生方の話も伺いました。その中で、福岡に居ても様々な大学の先生の講義や指導の受けられる本学に入学を決めました。大学院の講義はコースワークも多く大変なこともありましたが、色々な先生方の講義やゼミに参加でき、これまで学べなかったことを学ぶ楽しい時間でもありました。博士論文は修士論文のテーマとは全く異なるテーマを選択したため、文献検討から始め、テーマとした口腔ケアの知識を得るために口腔ケアに関する資格も取得しました。また、予備研究2つと本研究の3つの研究を行いました。研究ごとに研究計画書の作成、研究倫理審査、調査施設への依頼、調査活動、結果の分析など、過程1つ1つに苦労がありましたが、研究手法、プレゼンの仕方や物事の見方や考え方、研究倫理など学ぶことも多く貴重な機会となりました。必要性を感じて始めた博士課程ですが、チャレンジしてよかったと思っています。新型コロナウイルス感染症の蔓延により調査ができない時期も経験し、学びや研究ができることは当然ではないことも実感しました。

博士課程での学びは、私にとってはリカレント教育です。私は、修士課程修了後から時間も経ち遅くはありましたが、私の人生のタイミングで学び直す機会を得たこと、また、学位取得まで多くの方々に支えて頂いたことに感謝しています。これから少しでも還元できるように日々努めていきたいと思っています。

教員紹介

# 令和4年度に着任した5名の教員のうち、 今回は3名の教員をご紹介します！

おお た すみ よ  
成育看護 講師 **太田 純代**先生  
インタビュー

Q 大学・学生の印象をお聞かせください

A 私の看護学生時代と比べて、学生さん方は真面目に学修されるし、教員の教えに素直に取り組まれる姿勢をととても持っていると感じています。そして地域活動にも積極的に参画され、生き生きと学生生活を謳歌されている印象です。実習担当も経験する中で、先生方は学生さん方が有意義な実りある実習が実践できるようにと、こんなにも準備されているのだと驚きました。学生さん一人一人に寄り添いより良い看護職としての人材育成を考えている姿勢がとても勉強になります。臨床に長くいたものとして、臨床と看護大学との連携を益々とれるように、私も努力していこうと思っております。



Q 勉強や研究に行き詰った時のリフレッシュ方法はありますか？

A 宗像によく似た海や山に囲まれたところに住んでいます。最高のロケーションの中で、休日はドライブを楽しんでいます。趣味の陶芸も30年ほど楽しんでおります。途中、中断していましたが今年度趣味として再開いたしました。作陶しているときは、無心になり作品になろうとしているものに愛情が溢れだします。なんとも言えない幸福感を味わえる瞬間です。どうぞ皆様もご興味あればこの幸福感を味わっていただきたいです。

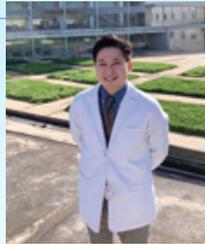
太田先生の略歴

1986年 福岡赤十字病院へ入職。助産師として、日に10人の分娩に対応する毎日を送る。内科系・外科系・小児科など病棟異動しながら経験を積みながら、訪問看護ステーション、地域連携室の経験をする。  
2022年 本学へ入職

よし はら しゅん  
クリティカルケア・災害看護 助教 **吉原 駿**先生  
インタビュー

Q 大学・学生の印象をお聞かせください

A 本学へ着任してすぐに感じたことは、自然豊かなところにあるキャンパスだということです。看護実習室、シミュレーション室が充実しており、基礎看護技術や患者さんの観察のための技術練習を行う環境が充実しています。



私の専門であるクリティカルケア看護学領域では、重篤な状態にある患者さんへの看護を行う領域です。病院以外ではクリティカルな状況にある患者さんに関わる機会がなく、患者さんがどのような状態にあるのかイメージすることが難しいですが、シミュレーション室が充実しており、シミュレーターを用いた模擬患者と仮想ICUを活用することで、クリティカルな状況にある患者さんへの看護介入をよりリアルに近い形で体験することができます。

実際の患者さんと同じ状況にあるシミュレーターを活用し、看護学実習や今後就職した際にも患者さんのイメージができ、臨床と同じ環境で学修がで

きる環境がとても魅力的であると感じています。

Q 教員、または看護職を目指されたきっかけは何でしょうか。

A 看護職を目指したきっかけは、医療関係に興味があり、療養している患者さんの手助けがしたいと思ったことです。医療ドラマなどをテレビでよく見ていて、漠然と格好いいなと思い、自分も医療の現場で働きたいと次第に思うようになりました。医療系の道へ進めば、自分の周りの人や家族に何かあった際に手助けができるかもしれないと思ったこともきっかけの一つです。

また、病院で働くなかで、院内看護研究を経験し、より良い看護実践へつなげるために看護研究を行うことも大切であると感じ、教員を志すようになりました。さらに、新人教育や異動者への教育・指導を経験する中で、相手に分かりやすく物事を伝えるためにはどのようにすればよいのかと、看護教育に興味を持ったのも教員を志したきっかけの一つです。

吉原先生の略歴

2015年 東京歯科大学市川総合病院入職 ICU・HCU勤務  
2020年 帝京大学福岡医療技術学部看護学科へ入職 助手  
2022年 本学へ入職

きく ち  
成育看護 助教 **菊池 さよ**先生  
インタビュー

Q 勉強や研究に行き詰った時のリフレッシュ方法はありますか。

A 経済学者など他分野の方々のお話を視聴しています。頭の中の言葉にできないイメージをはっきりと言語化していらしゃるので、こちらまで思考がスッキリと整理されるような気分になります。活力のある方の話を聞いていると、元氣ももらえます。また、Nintendo Switchのリングフィットをして気分転換をしています。身体を動かすことの大切さを年齢とともに感じるようになりました。



す。また、私は「大学生のときにもっと〇〇をしておけば良かった」と後悔したので、少しでも「やってみよう」と思ったことは、とりあえずチャレンジしてみるような積極性を持ってほしいです。

Q これからトライしてみたいことはありますか。

A 息子や娘とボランティア活動をしたいと思っています。「無駄な経験なんてない」と考える方なので、色々な経験を私もしたいですし、子どもたちにもさせたいと思っています。ホストファミリーもしてみたいですね。

菊池先生の略歴

福岡県生まれ。助産師として総合病院や診療所に勤務した後、本学大学院で保健学修士号取得。  
自治体、高等学校、大学(非常勤講師)に勤務後、2児を出産。地域の母子保健、健診後の保健指導、他大学にて非常勤講師として勤務。  
2022年 本学へ入職

Q 学生に期待することは何でしょうか。

A 広い視野をもって、色々な考え方があることを常に意識してほしいで



# ようこそ図書館へ!

大学の正面入口であるゲート棟に位置し、約5万5千冊を所蔵。電子書籍や電子ジャーナル(学術雑誌)、データベースも整備しており、学外からも利用できます。

所蔵する資料は、医療・看護系の図書が約6割を占め、専門の知識を深く探求することができます。また、赤十字関連の図書を備えた「赤十字コーナー」、災害看護・人道科学関連の図書を備えた特別コレクションのほか社会学や心理学等の図書も充実しています。

【開館日】月曜日～金曜日(土日、祝日は閉館)

【利用時間】8:45～18:30 宗像市民、医療関係者の方等もご利用になれます(詳細はホームページをご確認ください)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、短縮開館しています。



災害看護・人道科学図書コーナー



赤十字コーナー

## 契約データベース等

医中誌web、最新看護索引web、CINAHL with full text、MEDLINE with full text、Cochrane Library、メディカルオンライン、eナーストレーナー、今日の診療web、ヨミダス歴史館、Visible body anatomy & physiology

## コレクション所蔵数(R5.3.31現在)

赤十字資料 757点、災害看護・人道科学関連資料 1,564点、貴重資料 135点、喜多文庫 4,491点

## 各種ガイダンス

図書館職員が教員と連携し、資料の探し方、データベースの利用方法など、学年に応じたガイダンスも行っています。

また、本学ホームページの図書館サイトでは、「図書館WEBガイダンス」ページを設け、図書館ツアーのほか、図書や雑誌の探し方などの動画を公開しています。



## 図書館ブログ

図書館からのお知らせや日々のちょっとしたことなど、更新していますので、ぜひのぞいてみてください♪



# 3年ぶりに来場型の オープンキャンパスを開催!

令和4年度は、3年振りに来場型のオープンキャンパスを実施しました。当日は、午前の部と午後の部の2部制で各回参加人数を40名に制限し、新型コロナウイルス感染症の対策を行ったうえでの開催となりました。また、午後の部では、オープンキャンパスの様子を生配信するWebオープンキャンパスも同時開催しました。

学長の挨拶の後、大学紹介や在学生との座談会、キャンパスツアーや体験授業を実施し、その後、希望者は、個別相談会や入試・奨学金説明会に参加しました。

体験授業では、「高機能シミュレーターを用いた看護演習」と「新生児に対する看護ケアの実施演習」に分かれ授業を体験しました。

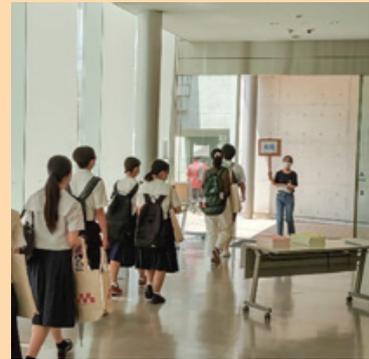
オープンキャンパスの実施にあたっては、在学生がサポートしてくれました。参加した高校生からは、「在学生の方の貴重なお話を聞くことができ良かった。」「在学生や先生方が優しくサポートしてくれて、雰囲気がとても魅力的だった。」と大変好評でした。



新生児に対する看護ケアの実施演習



高機能シミュレーターを用いた看護演習



キャンパスツアー

## キャンパス体験プログラムを開催!

高校生が本学に来学し、キャンパス生活を体験してもらうキャンパス体験プログラムを実施しました。

6月は、「看護と赤十字を知ろう」をテーマに「看護と赤十字について」の講義後、学内見学ツアー、看護技術体験に参加しました。看護技術体験では、医療器具を使用して傷の手当てを体験しました。

また、10月には「看護について学ぼう～人体の知識と国際看護～」をテーマに国際看護コースの学生の活動報告と看護学の基本となる「人体の構造と機能」の模擬授業を体験しました。

令和5年度予定

- ・6月10日(土) ミニオープンキャンパス
  - ・7月15日(土) オープンキャンパス
  - ・8月 5日(土) オープンキャンパス
  - ・10月15日(日) オープンキャンパス
- ※日程は変更になることがあります。詳細は、ホームページで確認ください。

Instagram公式アカウント @jrckyushu\_college

学生の様子や学校の紹介など投稿しています。ぜひフォローしてください。

在学生、卒業生からの投稿も受け付けます。入試広報課(nyushikoho@jrckicn.ac.jp)までご連絡ください。



遥碧祭の様子



企画展に参加してくれた高校生



災害支援募金活動を行う学生



キャンパス体験プログラムの様子



広報誌「一碧」はこれまで、年2回発行し、皆さまにお届けして参りましたが、大学でのDX推進・デジタル化を進めるにあたり、広報誌「一碧」につきましても、電子版への変更を検討して参りました。前号(23号)で、電子版への変更について、皆様にアンケートでお尋ねしたところ、紙面での郵送は不要である、との回答が多数という結果になりました。これを受けまして、次の25号以降は紙面での郵送はとりやめ、ホームページにてご確認いただくように、変更致します。今後は、下記URLからご覧いただけますよう、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



<https://www.jrckicn.ac.jp/guide/guide02/#page02>



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けられました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの願ひが込められています。

題字：吉田 歩さん(2014年度 看護学部卒業生)／福岡県・柏陵高校出身

## 日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地

Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>



Instagram公式アカウント

### 寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本学ホームページでご確認をお願いいたします。